

後志地域公共交通計画の 枠組みについて

第3回北海道後志地域公共交通活性化協議会

令和 3年11月

1. 後志地域公共交通計画の構成

- ▶ 後志地域公共交通計画では、「はじめに」で計画の概要（趣旨・期間・区域など）を示した上で、「後志地域の現状・将来像及び課題」を整理し、それらを踏まえた計画の「基本的な方針・目標」、「目標達成のための施策・事業」、及び「計画目標の達成状況の評価方法」をとりまとめ

計画の目次構成

各項目の概要

概要

1. はじめに

計画策定の趣旨、計画の期間、計画の対象区域、計画の位置付け、計画の構成

後志地域の現状・将来像及び課題

2. 後志地域の特性・現状

後志地域の地形・地勢、人口推移・分布、主要施設（病院・学校など）の立地、観光入込動向、上位・関連計画の概要、など

3. 地域の公共交通の現状

鉄道、バス（民間・市町村運営）の運行・利用実態、タクシー・ハイヤーや他の移動資源の現状、など

4. 地域の移動特性・ニーズ

地域住民の通勤・通学・通院などの移動特性・ニーズ、地域への来訪者（観光）の移動特性、など

5. 地域の公共交通の課題

後志地域の公共交通の問題点および課題（地域全体、北後志・羊蹄山麓・岩宇・南後志地区）

6. 計画の基本的な方針・目標

計画が目指すべき将来像や公共交通が目指すべき役割を示す「基本的な方針」、方針に即した計画の「目標」

7. 目標達成のための施策・事業

目標達成のための施策・事業（内容、実施主体（北海道・市町村・交通事業者等）、計画期間内でのスケジュール、など）

8. 計画の達成状況の評価

目標の達成度の評価方法（評価指標、指標の目標値、評価スケジュール）、評価結果を踏まえた見直し方針、など

計画の方針・目標、施策・事業、評価

2. 各項目のイメージ

概要

1. はじめに

計画の趣旨（イメージ）

- 人口減少が続く後志地域は、小樽市や倶知安町、余市町、岩内町といった地域中心都市に人口が集中する一方で、住民の在住地が地域全体に広域に分布しており、高齢化の進行も顕著である。このような中、小樽・余市間、余市・倶知安・ニセコ間などにおいて、通勤・通学・通院などの交通需要が多くなっており、需要に応じて、広く分布する地域住民の交通手段の確保が必要である。
- 一方で、当該地域の公共交通は、路線バスが土日祝日に運休や減便になっている地域もあり、利用者の少ない路線における効率的な交通の検討が必要となっている。また、2030年度末の北海道新幹線札幌延伸に伴い、並行在来線としてJR北海道から経営分離される函館本線の長万部・小樽間が主要な幹線交通となっており、経営分離後の動向が地域の公共交通ネットワークの構築に多大な影響を及ぼすことになる。
- そうした中、2020年11月に、地域公共交通に関する法制度が改正され、「まちづくりと連携した公共交通ネットワーク形成」に加え、地域における「輸送資源の総動員」の考えが位置付けられた「地域公共交通計画」の策定が自治体の努力義務とされている。地域の一部の市町村では、「地域公共交通計画」や改正前の法に基づく「地域公共交通網形成計画」が策定され、取組が進められているが、広域にわたる幹線的な公共交通網の構築については、北海道の主体的な役割が重要性を増している。
- 以上の背景を踏まえて、後志地方の全20市町村及び長万部町の参画の下、地域住民の生活や地域の観光などを支える持続可能な交通体系を構築するため、地域の公共交通政策のマスタープランとなる「後志地域公共交通計画」を策定する。

計画の期間（予定）

- 5年間（2022年4月～2027年3月）

計画の区域

- 後志地方20市町村及び長万部町

計画の構成（記載内容）

- 次項以降の構成のフロー図を記載

計画の位置付け（イメージ）

- 「後志地域公共交通計画」と、国・北海道における上位・関連計画や、各市町村の計画の関係性を記載

【国・北海道の計画】

国：地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針、など

道：総合計画、道央広域連携地域政策展開方針、交通政策総合指針、北海道観光のくにづくり行動計画、など

【市町村の計画】

上位・関連計画

- 総合計画
- まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 都市計画マスタープラン
- 観光関連計画 など

上位・関連計画を踏まえて策定

後志地域公共交通計画
〈地域の公共交通政策のマスタープラン〉

地域公共交通計画
（網形成計画）

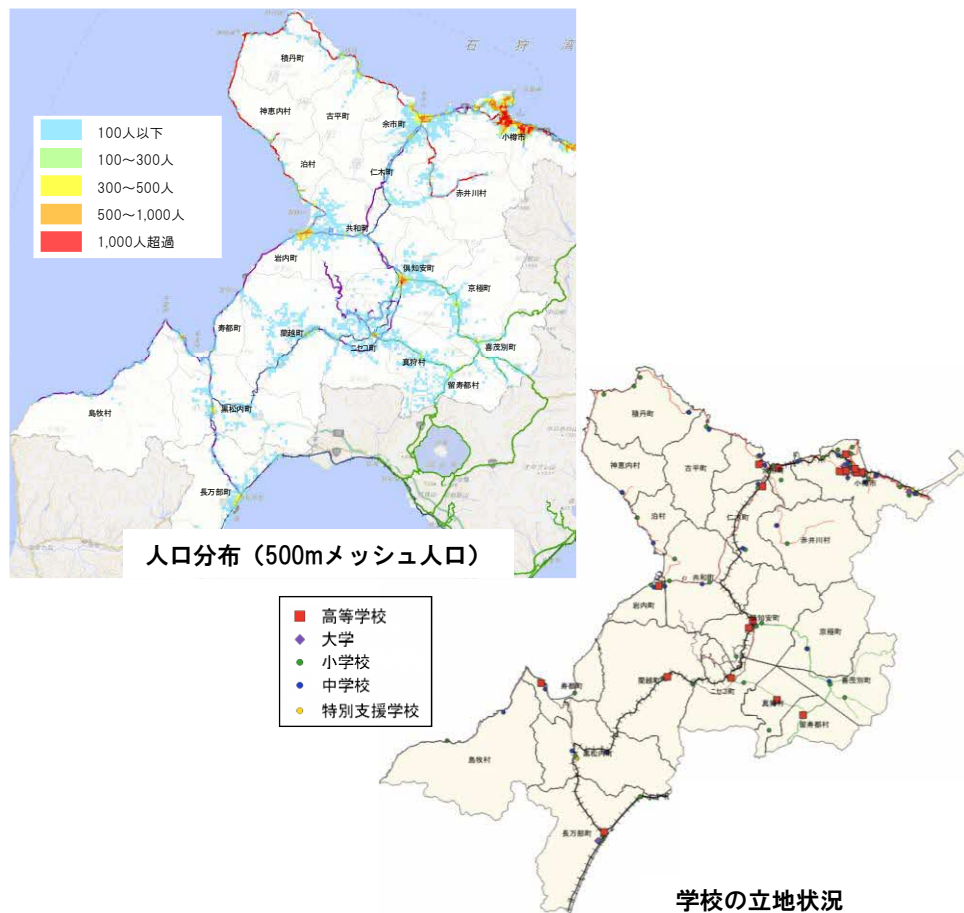


2. 各頂のイメージ

後志地域の現状・将来像及び課題

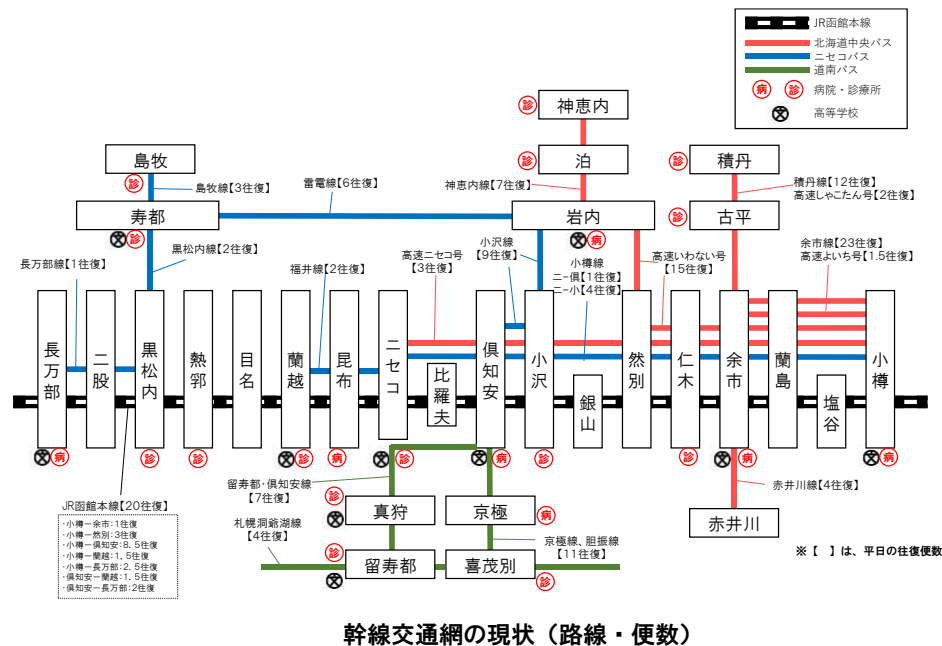
2. 後志地域の特性・現状

- 後志地域の地形・地勢や人口推移・分布、主要施設（病院・学校など）の立地、観光入込動向、上位・関連計画の概要などの整理結果をとりまとめ（本会議資料4p3～6の結果等を整理）



3. 地域の公共交通の現状

- 後志地域の公共交通や移動資源について、鉄道や民間バス（路線バス・高速バス）、市町村運営バス（コミュニティバス）の運行・利用実態、タクシー・ハイヤー事業者や他の移動資源の現状などの整理結果をとりまとめ
- 鉄道や民間バス（路線バス・高速バス）は、本会議資料4p7～12の結果等を整理
- 市町村運営バス（コミュニティバス）や他の移動資源などは、既存公表資料や2021年8月に実施した「公共交通等に関する市町村役場アンケート調査」の結果等を基に整理

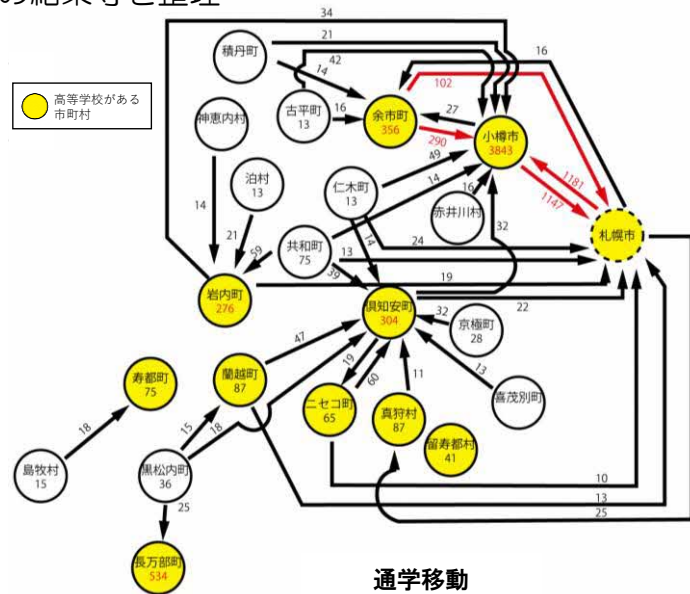


2. 各頂のイメージ

後志地域の現状・将来像及び課題

4. 地域の移動特性・ニーズ

- ・地域住民の通勤・通学・通院などの移動特性、地域への来訪者（観光）の移動特性、住民・来訪者の公共交通に対するニーズなどの整理結果をとりまとめ
- ・地域住民の通勤・通学・通院などの移動特性は、本会議資料4p13～15の結果や実施中の住民アンケート（本会議資料2）の結果等を整理
- ・来訪者の移動特性は、ビッグデータ分析や地域外在住者を対象としたWebモニタアンケート調査の結果等を整理
- ・住民・来訪者の公共交通に対するニーズは、住民アンケート（本会議資料2）や地域外在住者を対象としたWebモニタアンケート調査の結果等を整理



5. 地域の公共交通の課題

- ・後志地域の公共交通について、地域全体や各地区（北後志・羊蹄山麓・岩宇・南後志地区）における問題点を整理した上で、後志地域全体の地域公共交通計画で対応していくべき公共交通に関する課題をとりまとめ
- ・問題点の抽出にあたっては、路線別や地区別の運行・利用実態、住民等の移動特性・ニーズを横並びで整理し、問題点を抽出（カルテ形式で整理し、必要に応じて、計画の参考資料に添付）
- ・課題のとりまとめは、「公共交通ネットワーク」や「多様な利用者のニーズ」、「交通事業者の実情」などの観点を考慮して、問題点に対応した整理を整理

問題点：高齢化が進展する中で、高齢者の長距離通院への対応が必要

問題点：高校の統廃合等により通学が広域化し、公共交通の確保が必要

問題点：路線バスの利用が低迷

問題点：バスドライバーの高齢化、人員不足による路線維持困難の恐れ

問題点：地域への来訪者の公共交通利用が少ない

問題点：公共交通空白地域が広範囲に分布

課題①：高齢者や高校生、観光客等の多様なニーズへの対応

課題②：利用者が少ない路線・便の行政負担の低減

課題③：バスドライバーなど、公共交通の担い手の確保

課題④：乗換など、公共交通の利便性向上

課題⑤：広域な地域における公共交通空白地域の低減

問題点・課題の整理イメージ

2. 各頂のイメージ

計画の方針・目標、施策・事業、評価

6. 計画の基本的な方針・目標

- ・前項の後志地域の公共交通の課題を踏まえて、計画が目指すべき将来像や公共交通が目指すべき役割を示す「基本的な方針」を提示
- ・方針に即した計画の具体的な「目標」を提示

方針1：地域住民や来訪者の広域移動を支える幹線・広域ネットワークの維持確保

目標①地域の中核・中心都市にアクセスする幹線ネットワークの構築

目標②住民の日常生活を支える広域ネットワークの維持

目標③バスドライバーの担い手確保による路線の維持

方針2：市町村内の生活圏交通の充実

目標④幹線・広域ネットワークの補完交通の確保

目標⑤生活圏交通と幹線・広域ネットワークの乗換の円滑化

方針3：公共交通の利用促進・持続性の確保

目標⑥公共交通の利便性向上と理解醸成による利用促進

目標⑦観光資源や大規模イベントを活かした利用促進

方針・目標の設定イメージ

7. 目標達成のための施策・事業

- ・目標達成のための施策・事業の内容や実施主体（北海道・市町村・交通事業者等の役割分担）、実施スケジュールを提示

●幹線・広域ネットワークの維持・確保方針の設定（本会議資料4のとおり検討中）

●幹線・広域ネットワークの運行見直し（検討体制の構築）

●路線見直しによるバスドライバー再配置

●ドライバー確保策に対する支援

●コミュニティバス等の生活圏交通の導入検討（新モビリティ導入検討の支援など）

●交通モード間の乗換拠点の機能強化

●シームレスな乗換を可能とする情報提供・運賃制度の導入（MaaS導入など）

●ICT導入による公共交通の利便性向上

●公共交通利用の意識醸成を図る広報活動

●観光誘客による公共交通の活用

施策・事業の設定イメージ

8. 計画の達成状況の評価

- ・目標の達成度を評価する方法として、評価指標とその目標値、評価スケジュール（実施のタイミング）を提示
- ・評価結果を踏まえた見直しの実施方針を提示

目標①②指標：路線バス（幹線・広域ネットワーク）の年間輸送人員

目標①②指標：路線バス（幹線・広域ネットワーク）の収支率

目標③指標：バスドライバー数

目標④指標：地域公共交通計画の策定市町村数

目標④指標：市町村内交通の運行数

目標⑤指標：乗継改善のためのダイヤ見直しの実施件数

目標⑥指標：地域住民の公共交通の利用率（アンケート結果など）

目標⑦指標：公共交通連携企画の取組事業者数

評価指標の設定イメージ